

吉備国際大学研究紀要
(人文・社会科学系)
第28号, 115-129, 2018

地域アウトリーチ型子育て支援活動が親子関係に及ぼす影響

—学生主導による親子ふれあい遊びの実践を通じて—

藤井 伊津子・高田 康史・雲津 英子
秀 真一郎・栗田 喜勝

**The Influence of District Child Rearing Parents Supports
with Outreach System to the Relationship between Parents and children
—Based on the Students initiative practices of the mutual touching play between parent
and child—**

Itsuko FUJII, Yasuhumi TAKATA, Eiko KUMODU
Shinichiro HIDE, Yoshikatsu KURITA

Abstract

This paper analyzed how the Students initiative practices of the mutual touching play between parent and child in District Child Rearing Parents Supports with Outreach System influence the relationship between parents and children from the participation's survey after every each activity. Mothers who participate the activities are generally satisfied with the activities. It is clear that they are also satisfied with watching what their children are having fun and with having some contacts with University students who are unusual relationships for parents and children.

This research couldn't reach to the differences of the quality between Outreach System and usual Visiting System in District Child Rearing Parents Supports. Also, it will obviously be the subject about the relationship and connection among participations

Keywords : Child Rearing Parents Supports, Teacher Training in Early Childhood Education and Childcare, Relationship between Parents and Children, Outreach System, District Coordination

キーワード : 子育て支援, 保育者養成, 親子関係, アウトリーチ型, 地域連携

1. 研究の背景と目的

少子高齢化、核家族化社会となり、子育てを取り巻く環境は非常に厳しい。地方では過疎化が進み、中山間地域にあるT市においては出生率は横ばいながらも人口は市の中心部に集中しており、2016年の出生数の割合は、出生数192人のうち129人（約67%）は市中心部の居住であると推察される。T市5歳階級ごとの年少人口の推移によると、0-4歳人口は2014年に909人であったのが、2019年には878人、2024年には853人と推計している¹⁾。郡部においては子育て世代は非常に少数で、地域の中で子どもの声を日常に聞くことはまれな状況が予想される。

このような少子化の状況の中で、子育てを主にやっているのは誰か。厚生労働省HP「子ども子育て支援：地域子育て支援事業」には3歳未満児約7～8割は家庭で子育てしており、核家族化、地域のつながりの希薄化、男性の子育てへの関わりが少ないこと、児童数の減少による、子育ての孤立化（子育ての不安感・負担感）、子どもの多様な大人・子どもとの関わりの減少が課題であるとし、地域子育て支援拠点の設置への推進が述べられている²⁾。

T市の子育て環境も同様の課題をもっており、「T市子ども・子育て支援に関するニーズ調査報告書就学前児童調査」（2014/9/9版）によると、「日常的に関わっている養育者」は、「父母」が54.0%で最も高く、次に「保育所」40.3%、「母親」36.0%、「祖父母」34.3%であり、「父親」は4.4%であった。「子どもの子育てに影響すると思われる環境」については、「家庭」が91.0%、次いで「保育園」41.4%、「幼稚園」24.0%、「地域」18.3%であった。「日頃子どもをみてもらえる人はいるか」という問いについては、「緊急時や用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」63.5%、「日常的に祖父母等の親族にみてもらっている」は33.5%、「いずれもない」が8.2%であった。これらの割合からは、高齢化社会にあっ

ても同居家族は少なく、家庭で子育てをしている世帯にあっては母親が一人で子育てを担っていることが推測される。

すべての子どもと子育て世代を社会全体で支えていくことを目的とした、子ども・子育て3法に基づく「子ども・子育て支援新制度」が2015年度からスタートした。T市においても「地域の子育て支援の充実」のための対策が取り組まれているが³⁾、現在、未就園児親子を対象とした「子育て支援センター」は本大学内に設置されている1カ所だけである。

T市子育て支援センターは、2010年に大学と地域が協働で社会から孤立しがちな未就園児のいる家庭を支援するために「子育てカレッジ」を開設し、その開設と同時にT市立保育園内に開設していたT市子育て支援センターが、本大学内に移転した。T市子育て支援センターには、多数の利用者があり好評であるが、1市4町が合併した広域なT市において、遠隔地域に住む親からは「市中心部にある子育て支援センターは遠距離のため、参加が難しい」との声があがっていた。子育て支援センターが季節の行事を取り入れた七夕やハロウィン、クリスマス会等のイベントを企画した時には、全市内外から親子80組前後の参加あり、大変好評である。未就園児親子が子育て支援センターを利用したいという要望はあるものの、地理的な問題から日常的には参加できない状況であること、そして日常では親子が家庭で孤立している子育ての姿が推測される。このことについての対応は子育てカレッジの実行委員会でも議論があがっていた。そこでその一助になればと2013年12月から、未就園児親子への子育て支援と学生の教育を目的に、市と連携しながら本学学生と教員が地域に出向き、未就園児親子へのアウトリーチ型子育て支援活動「出前講座（親子ふれあい遊び）」を開始することになった。

この「親子ふれあい遊び」の内容は、前半を絵本の読み聞かせやわらべうた遊び等の、学生や教員か

ら親子への提供型の遊び、後半をおもちゃで遊んだり、親とおしゃべりをしたりする自由遊びとで構成した、約1時間半を過ごすものである。

出前講座の初期は、教師と学生とが一緒に手探りで実施計画を検討し、役割を分担し実施していた。自由遊びの時間には教員は、母親の育児相談も受け付けることを案内した。しかしその場ですぐには参加者からの相談の申し出はなかった。むしろ母親たちは親たち同士や学生・教職員との何気ない会話をそれぞれにすることが楽しい様子であった。そこでスタッフが改まって相談を受け付けるというのではなく、親子の傍にいて遊びを見ながらおしゃべりをし、母親の思いを聞くように関わっていくことにした。「親子ふれあい遊び」の計画においても、徐々に学生が主導的に実施計画を立てて取り組むように移行していった。2017年度は子育てカレッジ実行委員でもある学生が出前講座の実施責任者となり、学生主体の運営となり、学生がほぼ全面的に計画を立案し取り組み始めた。

本出前講座は母親から好評で、活動を開始して5年になるが、初期から「回数を増やしてほしい」との声があがっている。

地域子育て支援事業の目的には、①子育て親子の交流の場の提供と交流の促進、②子育て等に関する相談、援助の実施、③地域の子育て関連情報の提供、④子育て及び子育て支援に関する講習等の実施が挙げられているが、筆者等の取り組む「親子ふれあい遊び」は①・②を主として開始し、現在は①が主となっている。本活動が親子にどのような影響があったのか、今後の課題は何か、活動を振り返り、評価し、課題を明らかにして内容の充実をしていくことが求められる。

大学が行う子育て支援には福井・小栗・瀧川(2008)の調査によると、学生が親子に提供するショー的な要素をもつものや、製作活動などの子どもの参加を主としたものが多かったという⁴⁾。会場は養成校内

の一室であったり、附属幼稚園・保育園であったりする^{5) 6)}。また、特定の地域会場における広場の開設もみられる。しかし、本学のように過疎地に複数カ所出向くアウトリーチ型子育て支援活動は見当たらない。過疎化少子化が全国的に進むなか、本学が取り組む学生主導による地域アウトリーチ型子育て支援活動「親子ふれあい遊び」の実践は地方における子育て支援の課題を探ることにもつながるであろう。

本研究はこれまでの、「親子ふれあい遊び」の実践において母親はどのようなことを期待し感じているのか、そして親子関係にどのような影響を与えているのか、本実践の成果と課題を検証し、今後のアウトリーチ型子育て支援活動の充実を図ることを目的とする。そして、保育者志望の学生と共に地域の大学として子育てを支援するとともに保育学生の学びにつながる活動になるよう努めたい。

2. 研究方法

(1) 調査対象

2014年度～2017年度第4回までの「出前講座（親子ふれあい遊び）」参加の保護者（母親）

出前講座終了時に母親にアンケート調査の趣旨について口頭で説明し協力を依頼した。アンケートの提出は任意であり、回答は無記名とした。

<「出前講座（親子ふれあい遊び）」の流れ>

毎回10:00～11:30に開設し、前半を学生からの絵本の読み聞かせやわらべうた等の提供型遊びを行い、その後は学生が製作した手作りおもちゃや木製のおもちゃ、ボールなどで学生が遊び相手をしながらの自由遊びを行い、最後にアンケート調査の依頼と回収が毎回の流れである。以下に2017年度第1回出前講座のプログラムを例として挙げる。

<H29年度第1回(6/9)出前講座プログラム>

1. あいさつ「あなたのおなまえは」
(担当者：学生K)
 2. 紙芝居『みんなでぼん』(学生：Y)
 3. てあそび「わにのかぞく」(学生：A, S)
 4. わらべうた「1本橋、あがりめさがりめ」
(学生：K)
 5. 運動遊び(学生：K2)
 6. 自由遊び(ボール, 木のおもちゃ, 人形, ままごと, 絵本)(全員)
 7. 大型絵本・歌遊び『はらぺこあおむし』
(学生：H, M)
 8. おわりのあいさつ(学生：K)
- *アンケートのお願いと回収
*絵本・紙芝居等は開催時の季節等を考慮して選書した。

(2) 調査内容

1) 活動内容についての評価

「出前講座(親子ふれあい遊び)」に参加してどのように感じたかを「大変良い・良い・あまり良くない・良くない」の4段階から該当する評価を求めた。

2) 感想・要望・子育て支援について等の自由記述

(3) 調査期間及び回収率

調査期間：2014年6月～2017年10月

回収率：2014年度：98.2% 6/6回分 54/55人

2015年度：75.0% 5/6回分 48/64人

2016年度：89.3% 6/6回分 50/56人

2017年度：92.5% 4/6回分 37/40人

全体回収率：87.9% 189/215人

(4) 自由記述の分析方法

本研究での自由記述については、テキストマイニングソフトKhcoderを使用して分析を行い、抽出語リスト及び共起ネットワークを作成した。抽出語リ

ストは、名詞、サ変名詞、形容動詞、副詞(+副詞可能)、動詞、形容詞について記述数の多い順に表記した(表2)。また、共起ネットワークは、最小出現数2、及び描写数60で設定し、強い共起関係ほど太線で、出現頻度が高いほど大きい円で描写されるように設定した。本研究では、この抽出語リスト及び共起ネットワークを用い、記述量と共起ネットワークでの共起関係のある語句をもとに、母親の自由記述(原文)と比較した。

3. 結果と考察

(1) 「出前講座(親子ふれあい遊び)」に参加した母親の満足度

「出前講座(親子ふれあい遊び)」に参加した結果の満足度について「大変良い・良い・あまり良くない・良くない」の4段階評価で回答を得た結果が表1の通りである。

表1 母親の出前講座参加満足度

実施年度	回数	期日	回収率(回答者/参加者)	評価			% (n)
				大変良い	良い	あまり良くない	
2014	1	7/3	100(9/9)	33.3(3)	66.7(6)	0	0
	2	7/17	100(14/14)	71.4(10)	28.6(4)	0	0
	3	8/11	85.7(6/7)	67.7(4)	33.3(2)	0	0
	4	11/6	100(6/6)	33.3(2)	67.7(4)	0	0
	5	12/4	100(10/10)	10.0(1)	90.0(9)	0	0
	6	1/16	100(9/9)	55.6(5)	44.4(4)	0	0
		計	98.2(54/55)	46.3(25)	53.7(29)	0	0
2015	1	8/6	0(0/3)	-	-	-	-
	2	9/29	88.9(16/18)	50.0(8)	50.0(8)	0	0
	3	10/15	100(3/3)	100(3)	0	0	0
	4	12/3	100(10/10)	70.0(7)	30.0(3)	0	0
	5	1/7	87.5(7/8)	85.7(6)	14.3(1)	0	0
	6	2/19	100(12/12)	91.7(11)	8.3(1)	0	0
		計	75.0(48/64)	72.9(35)	27.1(13)	0	0
2016	1	6/16	100(4/4)	100(4)	0	0	0
	2	8/4	68.4(13/19)	69.2(9)	30.8(4)	0	0
	3	9/27	100(16/16)	62.5(10)	37.5(6)	0	0
	4	10/13	100(4/4)	100(4)	0	0	0
	5	12/1	100(5/5)	80.0(4)	20.0(1)	0	0
	6	1/13	100(8/8)	87.5(7)	12.5(1)	0	0
		計	89.3(50/56)	76.0(38)	24.0(12)	0	0
2017	1	6/9	100(11/11)	45.5(5)	54.5(6)	0	0
	2	8/3	90(9/10)	55.6(5)	44.4(4)	0	0
	3	9/29	81.8(11/13)	81.8(9)	18.2(2)	0	0
	4	10/13	100(6/6)	100(6)	0	0	0
		計	92.5(37/40)	67.6(25)	32.4(12)	0	0
		総計	87.9(189/215)	65.1(123)	34.9(66)	0	0

「親子ふれあい遊び」に参加した母親たちは、活

動内容について概ね満足しているようであり、不満を感じているとみられる評価は見当たらなかった。本研究における実践での遊びの実施内容は前節にて提示した通りである。好評価を得た理由については先ほど示した数値から、実践の内容そのものにあるのか大学生との関わりにあるのか地域アウトリーチ型子育て支援活動の特性であるのかを読み解くことはできない。しかしながら、本実践が母親にとって好評価な実践であること迄は明らかになったといえる。

(2) 自由記述「感想・要望・子育て支援について」 記述数

表2より、名詞の記述数は記述の多い順に「子ども(記述数56)」「おもちゃ(記述数20)」「学生(記述数19)」「絵本(記述数16)」「兄さん(記述数16)」「遊び(記述数16)」「姉さん(記述数15)」「声(記述数14)」「機会(記述数13)」「劇(記述数13)」などが続いた。これらを分類すると、人に関わるものが記述数順に「子ども」「学生」「兄さん」「姉さん」、児童文化材に関するものが記述数順に、「おもちゃ」「絵本」「遊び」「劇」、その他が「声」「機会」などが続いた。

サ変名詞の記述数は記述の多い順に「参加(記述数22)」「一緒(記述数10)」「刺激(記述数6)」「子育て(記述数6)」「お話(記述数4)」「準備(記述数4)」「用意(記述数4)」などが続いた。これらのうち、参加親子自身を主語とするであろうと想像されるものは、「参加」「一緒」「刺激」「子育て」であり、講座主催者である学生や教員を主語としていると予想されるものは「お話」「準備」「用意」であった。

形容動詞の記述数は記述の多い順に「いろいろ(記述数3)」「色々(記述数3)」「大好き(記述数3)」「貴重(記述数2)」「自由(記述数2)」「大変(記述数2)」などであった。

副詞(+副詞可能)の記述数は記述の多い順に「とても(記述数34)」「時間(記述数14)」「もっと(記述数14)」「もう少し(記述数13)」「また(記述数11)」「初めて(記述数9)」などであった。

動詞の記述数は記述の多い順に「する(記述数67)」「思う(記述数41)」「遊ぶ(記述数35)」「できる(記述数34)」「ある(記述数33)」「楽しめる(記述数18)」「楽しむ(記述数17)」などであった。

形容詞の記述数は記述の多い順に「楽しい(記述数70)」「良い(記述数23)」「よい(記述数15)」「有り難い(記述数13)」「嬉しい(記述数8)」「いい(記述数8)」などであった。

これまでに出現したすべての品詞の中で最も記述数が多かったのは、形容詞「楽しい」でありこれに関連して動詞において「楽しめる」「楽しむ」が記述され、「楽し」に関する総記述数は105件であった。前節においても母親の好評価が確認されたが、本実践は概ね楽しく満足できる内容であったといえる。本実践の成果と課題の詳細な分析は次節にて行う。

(3) 共起ネットワーク図から読み取る実践に対する母親の「感想・要望・子育て支援について」

母親の自由記述「感想・要望・子育て支援について」から作成した共起ネットワークが図1である。これに自由記述の原文(以下原文)を照らし合わせることで、母親の自由記述から読み解く本実践の成果と課題を明らかにしていく。

中央部分に「参加-初めて」のカテゴリーが抽出された。これに関する原文を確認すると「初めて紙芝居を見たのですがとても興味を持って見ていました。次回も参加したいです」や「初めての参加でしたが、楽しんでくれたのでよかったです」、「こんな会に参加したのが初めてだったので、参加してみても良かったです。子どもが楽しんでいた」など、初めての参加であることに加え、参加に関して満足している様子がうかがえた。子育て支援事業への参加に

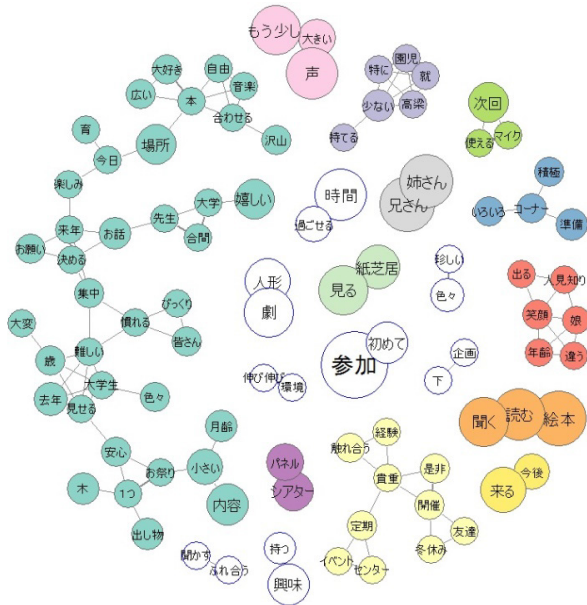


図1 共起ネットワーク図 母親「感想・要望・子育て支援について」

ついで西ら⁷⁾(2017)は「K中山間地域の親が市街地で開催されている支援事業を利用しない理由について、施設まで距離があるため、あえて小さな子どもを連れて行かない現状も見られた。」としており、本実践と同じ中山間地域の子育て世代の参加の難しさの一因を述べている。本実践のような地域アウトリーチ型子育て支援活動はこの問題の有効な対策となる可能性があるが、本実践がアウトリーチ型だからこそ母親は参加が容易であったのか、別の場所(居住地より遠い場所や市内中心部や大学)においても参加意思があったのかなどは明らかにはできない。アウトリーチ型という講座の特性を明らかにするためにもこの部分に迫る研究が急務であり、この部分が本研究の限界性でもある。

続いて、「時間-過ごせる」の категорияについて考察する。原文には「おもちゃで遊んだり、みんなで歌を歌ったり、とても楽しい時間を過ごせました」や「手遊び、紙芝居などとても楽しい時間を過ごせました」など“楽しい時間”に関わるものや、「貴重なふれあいの時間が過ごせて、とてもよい経験になりました」と親子のふれあいの時間に満足してい

ると読み取れる記述もみられた。先行研究において母親の気持ちと子どもの楽しさについて「子どもが子育て支援の場で楽しく遊べるか、そうでないかの違いは母親の気持ちに大きく影響することが示されたが、母親の気持ちは子どもへの影響も大きいと思われることから、一人ひとりの遊び環境について検討することが重要である⁸⁾。」(園川, 2016)とされているが、本実践は母親たちにとっては親子で楽しく過ごせる内容や場であったといえる。また、上記の先行研究では、子育て支援の場では親子が他者とつながる環境(親子が他者とつながりがあるかないか)であることが重要と示している。この部分について、本実践では、他の参加親子とのつながりや関係性については、親子間交流が活発にみられたのかなどつながり・関係性に関する部分についても明らかにするには至っていない。この点も本研究に残された課題である。

次に、「姉さん」「兄さん」についての categoria について考察する。この項目は、前節の名詞の記述数で上位に挙げた言葉である。原文には「普段お姉さんお兄さんとふれあうことがないので、刺激になりました」や「普段ふれあう機会がないので、専門で幼児教育を学ばれているお兄さんお姉さんとの時間は貴重でした。是非、定期的に開催していただければ光栄です」、「娘がお兄さんお姉さんのところに行くと、必ず笑顔で対応してくれていたし、年齢の違う子とも同時に遊んでくれていて、さすがです。内容も親もとっても楽しかったです」という記述がみられた。これらの記述より、親子にとって学生とのふれあいは、非日常的な体験であり、母親は幼児教育を専攻し専門的に学ぶ大学生に対する安心感や彼らと子どものふれあいについて満足感を得ているようである。また、先行研究では、子育て支援に参加した学生の学びとして「学生の学びのプロセスとしては、親子の様子を初めて観察することから始まり、関係性を見る視点、相互作用を捉える視点、子

どもの主体性を育む視点, 子どもの情緒を感じる視点, 個別性に敏感に対応する視点, 保護者に共感する視点, 自分達の活動を客観的に捉える視点において, 学びの広がりや深化が見られた⁹⁾」としている。実践内容が異なるため先行研究と全く同様な学びが学生たちに保障されているとは言い難いが, 本実践学生にとっても学びがあり母親たちにとっても有益なwin-winな関係の実践であった可能性が高い。

続いて, 名詞の記述数の中で現れた「声(記述数14)」についてふれたい。共起ネットワークにてカテゴライズされていたのは「声—もう少し—大きい」であり, 原文を確認すると2015年度第2回の自由記述にこの内容が集中していた。原文では, 「学生さんの声がもう少し大きいと聞こえやすくいいと思います」, 「声が小さい人が多いので明るく大きい声で話した方がいいと思いました」, 「学生さんがもう少し積極的でもいいかなと思いました」, 「人形劇, もう少し声を大きく聞き取れやすくしてほしいかった」との記述があった。結論からいえばこの回の人形劇は学生の声の小ささ, つまり, 下見がなく初めての会場で会場の広さと音量に対する上演環境が不備であったこと, 自信のなさや練習不足等, 質の高い人形劇ができなかったといえる。しかしながら, 前々節で述べた満足度調査において該当回は, 「大変よい(8人:50%)」, 「よい(8人:50%)」であったことに加えて, 「子どもが遊べる場所が少ないので, このような行事があると, 親はすごく助かります」, 「子どもも親も楽しめる場をもっとたくさん作ってほしいと思います」, 「子どもを遊ばせる所がないのでもう少しこういう機会を増やしてくれたら, 楽しく子育てできると思います」などと, 地域アウトリーチ型子育て支援活動に対する好評価もみられている。これらのことをまとめると, 該当回の実践での学生の人形劇について一部の母親の自由記述からはやや不満と見られる内容がみられた。しかしながら, 他方で, 地域アウトリーチ型子育て支援

活動に対する好評価もみられたうえ, 満足度調査では4段階評価で3点以上の評価であった。つまり, 母親たちにとって, 学生が提供する遊びの質は高いに越したことはないが, それよりも子育て支援の場や学生との関わりがより満足度をあげている可能性が示唆された。

4. まとめ

本研究はこれまでの, 「親子ふれあい遊び」の実践において母親はどのようなことを感じ, 親子関係にどのような影響を受け, 本実践におけるアウトリーチ型子育て支援活動にどのような意見をもっているかを検証することで, 今後の活動に向けて成果や課題を明らかにすることを目的とし研究を行った。その結果以下の内容が明らかとなった。

- ①本研究において対象とした地域アウトリーチ型子育て支援活動「親子ふれあい遊び」の内容は, 参加した母親にとって概ね満足度の高いものであり, 親子共に楽しく活動し過ごせる内容であった。
- ②参加した母親は, 学生の専門性に安心感をもちながら活動を行っており, 子どもと学生の関わりについても好意的に捉えている傾向にあった。
- ③遊びの質が低いと考えられる回であっても母親の満足度は概ね高かったことより, 提供する内容の質もさることながら, 親子にとって学生との出会いは非日常的なものであり, 「多様な大人との出会い」の機会となり, アウトリーチ型子育て支援活動という場や学生との関わりがより満足度をあげている可能性が示唆された。
- ④このことから「自由遊び」は, 各々の親子と学生との「ふれあい」をもつために重要なプログラムであることが明らかになった。

また, 本研究における限界性として, アウトリーチ型と一般的な親子来訪型の子育て支援活動の特性

の違いや差異に迫るまでには至っていない点が挙げられる。しかしながら、本研究での実践のような活動は、子育て支援事業であるとともに、学生育成の場であり、地域貢献事業であるともいえる。都市部

や中山間地域、過疎地域など地域によってその問題は異なるが、我が国の母親たちがよりよく子育てのできる環境になるよう実践・研究ともに尽力していきたい。

表2 抽出語リスト母親自由記述「感想・要望・子育て支援について」

子ども	名詞		中変名詞		形容動詞		副詞(十助詞可能)		動詞			形容詞				
	回数	意味	回数	意味	回数	意味	回数	意味	回数	意味	回数	意味	回数	意味		
子ども	56	スペース	1	参加	22	いろいろ	3	全体	1	ける	67	指てる	2	通る	70	楽しい
おちんち	20	センター	1	参加	10	色々	3	多く	1	思う	41	出る	2	怒る	23	良い
学生	19	マイク	1	朝飯	6	大変	3	時間	1	遊ぶ	35	助かす	2	助かす	15	良い
絵本	16	園児	1	子育て	6	大変	2	もっ少	1	できる	34	いう	2	助かす	13	有り難い
遊び	16	音楽	1	お話し	4	自由	2	また	1	ある	33	うめれる	2	助かす	11	嬉しい
兄弟さん	16	楽しみ	1	神曲	4	大変	2	初めて	1	楽しめる	18	ふれあえる	2	聞き取る	8	いい
姉さん	15	探検	1	用意	4	きれい	1	たくさん	1	楽しむ	17	みる	2	聞き取る	8	いい
声	14	合開	1	お願い	3	スムーズ	1	次回	1	楽しむ	14	みる	2	聞き取る	7	優しい
機会	13	手作り	1	安心	3	スムーズ	1	観戦	1	楽しむ	14	かす合う	1	聞き取る	6	小さい
園	13	人員知り	1	園遊	3	可能	1	今後	1	楽しむ	13	かす合う	1	聞き取る	6	多い
人形	11	先生	1	参加	3	楽	1	子供	1	聞く	13	引き出す	1	聞き取る	6	少ない
歌	11	最終	1	是非	3	簡単	1	色々	1	なる	13	引き出す	1	聞き取る	6	少ない
紙芝居	10	大学	1	お祭り	2	簡単	1	広々	1	なる	11	遊ぶ	1	聞き取る	4	少ない
手遊び	10	冬休み	1	びっくり	2	元気	1	少し	1	やる	7	遊ぶ	1	聞き取る	3	すこい
興味	9	年輪	1	企画	2	元気	1	常に	1	やる	7	聞く	1	聞き取る	3	すこい
内容	9	友達	1	経験	2	残念	1	是非	1	遊ぶ	6	学ぶ	1	聞き取る	2	珍しい
家	9	うた	1	お話し	1	上手	1	今日	1	遊ぶ	6	感じる	1	聞き取る	2	ありがたい
シアター	8	かけ	1	アップ	1	上手	1	本々	1	遊ぶ	5	感じる	1	聞き取る	2	ありがたい
場所	8	下	1	スタート	1	親切	1	来住	1	行く	5	感じる	1	聞き取る	2	嬉しい
親睦会	8	森	1	フレンド	1	親切	1	仲間	1	行く	4	感じる	1	聞き取る	1	嬉しい
バス	7	木	1	フレンド	1	親切	1	仲間	1	作る	4	感じる	1	聞き取る	1	嬉しい
母親	7	ある時	1	協力	1	親切	1	仲間	1	作る	4	感じる	1	聞き取る	1	嬉しい
親子	6	お歌	1	教育	1	親切	1	仲間	1	作る	4	感じる	1	聞き取る	1	嬉しい
子	6	お母さん	1	交流	1	親切	1	仲間	1	作る	4	感じる	1	聞き取る	1	嬉しい
親	5	エフロン	1	交流	1	親切	1	仲間	1	作る	4	感じる	1	聞き取る	1	嬉しい
出し物	4	クラブ	1	交流	1	親切	1	仲間	1	作る	4	感じる	1	聞き取る	1	嬉しい
月輪	4	オバケ	1	交流	1	親切	1	仲間	1	作る	4	感じる	1	聞き取る	1	嬉しい
人	4	ゲーム	1	交流	1	親切	1	仲間	1	作る	4	感じる	1	聞き取る	1	嬉しい
本	4	ゲーム	1	交流	1	親切	1	仲間	1	作る	4	感じる	1	聞き取る	1	嬉しい
カーン	3	ハリエーション	1	交流	1	親切	1	仲間	1	作る	4	感じる	1	聞き取る	1	嬉しい
音さん	3	ハリエーション	1	交流	1	親切	1	仲間	1	作る	4	感じる	1	聞き取る	1	嬉しい
笑顔	3	ハリエーション	1	交流	1	親切	1	仲間	1	作る	4	感じる	1	聞き取る	1	嬉しい
積極	3	ピアノ	1	交流	1	親切	1	仲間	1	作る	4	感じる	1	聞き取る	1	嬉しい
定期	3	マイペース	1	交流	1	親切	1	仲間	1	作る	4	感じる	1	聞き取る	1	嬉しい
歳	3	メリハリ	1	交流	1	親切	1	仲間	1	作る	4	感じる	1	聞き取る	1	嬉しい
1つ	2	リズム	1	交流	1	親切	1	仲間	1	作る	4	感じる	1	聞き取る	1	嬉しい
イベント	2	家の子	1	交流	1	親切	1	仲間	1	作る	4	感じる	1	聞き取る	1	嬉しい

(記述数：個)

引用文献・参考文献・註

- 1) 高梁市 (2015), 『高梁市子ども・子育て支援事業計画』.
- 2) 厚生労働省HP2017/3, 「地域子育て支援拠点事業とは (概要)」, 2017/12/25取得.
- 3) 1) と同じ
- 4) 福井逸子・小栗正裕・瀧川光治 (2008), 「子育て支援力」育成のための保育士養成教育に関する研究 (1) —短期大学へのアンケート調査の分析を通して—, 『北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要』, 第1号, 135-150.
- 5) 塚本久仁佳 (2013), 「保育者養成校における子育て支援の取り組み」, 『日本心理学会第77回大会論文集』, 1055.
- 6) 大高恵 (2016), 「養成校における子育て支援活動と学生の取り組み—学生が行う「ほうせんひろば」の5年間の取り組みと振り返り—」, 『全国保育士養成協議会第55回研究発表論文集』, 342.
- 7) 西朋子・三宅公洋・友川幸 (2017), 地方都市の中山間地域における子育てと子育て支援の特徴—市街地との比較からみえる「地域の見守りとゆるやかなつながり—」, 信州大学教育学部研究論集, 第11号, 69-83.
- 8) 園川緑 (2016), 子育て支援の場における母親の気持ちの変容とそのプロセス—特別な支援を必要とする子どもの母親の気持ちに着目して—, 帝京平成大学紀要27, 127-140.
- 9) 小屋美香・星野真由美 (2017), 学生の子育て支援活動と教育的効果に関する考察, 育英短期大学幼児教育研究所紀要15, 11-23.

巻末資料

資料：参加者（母親）に行ったアンケートの「感想・要望・子育て支援について」の自由記述 全文
<2014年度>

第1回7月3日：A地域

- ・楽しかった・また来たいです。今後もっとやってほしい。(5人) ※ ()内は同内容記述人数, 以下同じ
- ・ふれあい遊びわらべうたは, また一緒にしたいと思います。
- ・表情豊かに絵本を読んでいただいて親子で楽しませていただきました。
- ・歌も子どもに楽しめていたのでとてもよかったです。
- ・七夕のお話は絵がきれいでよかったです。(2人)
- ・小さい子はなかなかじっと聞くのに慣れていないので集中するのが難しいです。
- ・内容はよかったです, 月齢が小さいためほとんど楽しめなかったのが残念でした。
2~3歳になると楽しめそうなので, また機会があれば参加したいと思います。
- ・身体を動かす遊びの方が楽しめてよいかもしれません。
- ・動きたい盛りの2歳児はあまり興味を示してくれませんでした。

第2回7月17日：B地域

- ・とても楽しかった(2人)
- ・楽しかった
- ・F地まではなかなか行く気にならないので, こうしてBまで来て下さると嬉しい。
- ・毎週してほしい。
- ・是非また来て下さい。
- ・子どももとても喜んでおり楽しめました。
- ・家では紙芝居などする機会がないので, 子どもも楽しめたと思います。
- ・8ヶ月なのに絵本に興味があったようでびっくりです。とてもよかったです。

- ・ 沢山のおもちゃがあって楽しめました。
- ・ まだ0歳なので見てのだけですが、もう少し大きくなったらまた、機会があれば来たいです。
- ・ おもちゃがでたまのスタートだったので一度片付けてからの方が、子どもがお話に集中できたかなと思いました。

お話はとってもおもしろかったです。

母親クラブの日程を3・4月に決めるので、もし早めに決めれば来年もお願いします。

第3回8月11日：C地域

- ・ とても楽しく参加できました。
- ・ 家ではできない遊びができてよかったです。支援センターがもう少し行きやすかったらいいのですが・・・
- ・ 親子で楽しく遊ぶことができました。
- ・ 普段家庭ではできないことが色々できて楽しかったです。
- ・ 色々できて楽しかったです。
- ・ 手遊び、絵本など身近なことで楽しく過ごすことができました。ありがとうございました。

第4回11月6日：D地域

- ・ 子どもが楽しく遊べてよかった。手作りのおもちゃを用意してくれるのもっといいと思った。
- ・ 楽しかった。このような会をもっとしてほしい。
- ・ 定期的にD総合センターで子ども向けのイベントがあると嬉しい。
- ・ 初めて紙芝居を見たのですがとても興味を持って見ていました。次回も参加したいです。
- ・ もう少し積極的に遊んでくれてもいいなと思いました。もっと沢山おもちゃがあってもいいかな。
- ・ 普段遊ばない木のおもちゃは、ぬくもりがあり、どれも興味津々で遊ばせていただきました。

第5回12月4日：E地域

- ・ 初めて児童館に来ました。広々として遊びやすい空間でした。また子育ての企画があれば参加したいです。
- ・ 子ども同士ふれ合えて、お兄さんお姉さんとも楽しめました。
- ・ 学生さんがよく笑いかけてくれたので、子どもも笑っていました。
- ・ 読み聞かせを遊んで聞かなくても、こういう集まりで、いろいろな子どもとふれ合うだけでも刺激になるので、ありがたいです。
- ・ 母親にも絵本を読んでいただけで、よかったです。
- ・ もう少しメジャーな手遊び歌もしてほしいかな。
- ・ 0-1歳向けにアップテンポで単純なパネルシアターもあればうれしい。

第6回1月16日：F地域（支援センターとの協同企画）

- ・ 紙芝居や人形劇は家でなかなかできないので、興味を持って見ていました。
- ・ 家では怒ることが多いので、親も子どもも気分転換できて、良かったです。
- ・ 紙芝居や絵本を興味深く、聞いたり見たりしている姿が見られて良かったです。
- ・ 新しいおもちゃが新鮮に感じたのか、楽しそうに遊べていました。
- ・ 人形劇が特に楽しかったようで、喜んで見ていました。
- ・ 手遊びも家で簡単にできるものを教えていただいたので、してみようと思います。
- ・ 親子共にゆったりとした雰囲気の中、楽しい一時でした。
- ・ 初めて人形劇を見させてもらって、すごく引き込まれていました。
- ・ 絵本や紙芝居の読み方が、さすがと思いました。
- ・ 楽しませてもらいました。
- ・ 普段お姉さんお兄さんと触れ合うことがないので、刺激になりました。
- ・ 赤ずきんちゃんの劇は楽しそうに見えて、親子で楽しめました。

- ・1歳半の小さい年齢でしたが、どの内容も興味を持っていたようで、良かったです。
- ・学生さんの優しい声かけも良かったです。
- ・もう少し広い場所でできると、いいなあと思いました。
- ・定期的にこのような会を、文化交流館で開いてほしいです。
- ・盛りだくさんの内容で楽しかったです。
- ・もう少し時間があると嬉しいかな。
- ・先生、学生さんたちの、ゆったりとした話しかけやお話の進め方にとても心地よく、親子で聞くことができました。
- ・学生さんたちの一生懸命なところがとても良かったです。

<2015年度>

第1回8月6日：F地域

都合により回収 0%

第2回9月29日：B地域

- ・楽しい雰囲気でも子どもも楽しそうでした。(3人)
- ・子どもが遊べる場所が少ないので、このような行事があると、親はすごく助かります。
- ・子どもも親も楽しめる場をもっとたくさん作ってほしいと思います。
- ・子どもを遊ばせる所がないのももう少しこういう機会を増やしてくれたら、楽しく子育てできると思います。
- ・早くこども園を作って下さい。
- ・冷蔵庫オバケのうたがおもしろかったです。
- ・パネルシアター、エプロンシアターがとても楽しかったです。
- ・学生さんの声もう少し大きくと聞こえやすくていいと思います。
- ・声が小さい人が多いので明るく大きい声で話した方がいいと思いました。
- ・学生さんがもう少し積極的でもいいかなと思いました。
- ・人形劇、もう少し声を大きく聞き取れやすくしてほしい。
- ・次回はマイクが使えるとよいと思います。(2人)

第3回10月15日：G地域

- ・マイペースでさせてもらえて、よかった。
- ・みんなと行動がちゃんとできるにはどうしたらいいか、やっていけたらと思う。
- ・環境の良いGに越してきて、伸び伸び楽しく子育てしています。
- ・初めて人の前で名前が言え、涙が出そうだった。
(昨晚ずいぶん家で名前を言うことを練習されたとのこと。「友達の手を引いて、遊びに誘う姿も初めて見た。今日はとても嬉しい。夫に見せたかった。」と言われた。)

第4回12月3日：E地域

- ・絵本の読み聞かせや歌、リズム遊びなど楽しく遊ばせていただきました。
- ・色々(珍しい)なおもちゃで遊べたのが楽しかったようです。(2人)
- ・子どもたちとの触れあい遊び、読み聞かせ等、楽しめる内容でした。
- ・母親への読み聞かせもしていただいて良かったです。
- ・絵本の読み聞かせなど声もう少し大きければなお良かったかなと思います。
- ・もう少し子どもと一緒に紙芝居などできたら良かったとおもいますが、全体的に楽しかったです。
- ・手作りが多く勉強になったし、楽しかったです。
- ・楽しい会を有り難うございました。
- ・また、お願いします。
- ・子どもがぐずってしまいましたが、とても親切にいただき、有り難うございました。

- ・とても楽しんでいました。
- ・楽しい時間を有り難うございました。

第5回1月7日：H地域

- ・冬休み中の開催だったので、子どももお友達と遊べて良かったと思います。
- ・普段こういった会に参加できなかったのもとても楽しかったです。
- ・子どもものびのびと楽しんでいたので、良かったです。
- ・子どもが楽しんでいる姿をみることができ、私もまた頑張ろうと思いました。有り難うございました。
- ・じっと座って読み聞かせができる子には、とても良かったと思います。
- ・じっとしてられない子のために読み聞かせの時遊ぶスペース（少量のおもちゃ）があったらメリハリがあって良かったかなと思いました。
- ・家の子は本が大好き、広い場所が大好き、お兄さんお姉さんが大好きなのでとても良い機会になりました。
- ・有り難うございました。次回は平日でなく、幼稚園がお休みの土・日・祝日の開催日があれば是非参加したいです。
- ・絵本の読み聞かせ、お友達と一緒に聞けて良かったです。
- ・みんなで遊ぶ時間があったのびのびと遊べていました。
- ・冬休みの最終日、本人が楽しく過ごせていました。有り難うございました。
- ・楽しく育バア・ジイ中です。今日は初めての場所へ参加しましたが良かったです。木のおもちゃを離しませんでしたね。
- ・市内に育バアの人は何組ぐらいでしょう？

第6回2月19日：F地域

- ・手遊び、人形劇、木のおもちゃなど盛り沢山の内容で、楽しんでいました。有り難うございました。
- ・普段触れ合う機会がないので、専門で幼児教育を学ばれているお兄さんお姉さんとの時間は貴重でした。是非、定期的に開催していただければ光栄です。
- ・ほのぼのした人形劇最高でした。
- ・学生さんの雰囲気がとても良かったです。
- ・人形劇がとても楽しかったです。もっとこういう機会を増やしてほしいと思います。
- ・人形劇がちょっと長かったけど、手遊びやおもちゃとかは楽しんでいて良かったです。
- ・有り難うございました。
- ・歌のお兄さんみたいにたくさん遊んでいただけて嬉しかったです。
- ・お姉さんお兄さん、皆さん子どもによく慣れていてびっくりしました！
- ・楽しい時間を有り難うございました。親子共々とても楽しませてもらいました。
- ・もう1年のびっこの活動があるので、来年度もこういう機会を楽しみにしています。
- ・大人も子どもも楽しめました。
- ・優しいお兄さんお姉さんに遊んでもらって楽しそうでした。子どももこんなお兄さんたちようになってほしいなと思いました。
- ・ありがとうございました。
- ・家でも同じ遊びができそうで良かった。
- ・寒いので家の中で遊ぶことが多い季節。バリエーションが増えて助かります。
- ・お兄さんお姉さんがいろんな遊びをしてくれたので、とても良かったです。
- ・学生の皆さんもたくさん場数を踏まれたのか、声は大きいし、流れもスムーズで上手にされていて安心して見ることができました。
- ・これからも人形劇や紙芝居など見せていただきたいです。ありがとうございました。
- ・学生さんの読み聞かせや、手遊びなど子どもたちの興味を引くもので、楽しませてもらいました。

<2016年度>

第1回6月16日：I地域

- ・こんな会に参加したのが初めてだったので、参加してみて良かったです。子どもが楽しんでいました。人見知りなので、最初は固まっていたけど、笑顔も出ておもちゃに夢中になっていた。
- ・同年代の子どもで遊ぶことが少ないので、このような機会が持てて良かったです。絵本も読んであげる機会が少ないので、もっと一緒に絵本をじっくりと楽しんでみようと思いました。また、このようなふれあい遊びがあればぜひ参加したいです。ありがとうございました。
- ・おもちゃで遊んだり、みんなで歌を歌ったり、とても楽しい時間を過ごせました。また、このようなイベントがあれば、ぜひ参加したいです。
- ・いいですね。また来たいです。

第2回8月4日：F地域

- ・まだ月齢が小さいので紙芝居や劇は楽しめなかったけど、お祭りは楽しめました。
- ・人形劇はピアノを用意してあったので、音楽つきでされると子どもたちも喜ぶかもしれません。
- ・人形劇や歌にとっても集中して見入っていました。
ゲームコーナーや食べ物のお店など、たくさんご協力有り難うございました。
(母親達が子どもたちのために夏祭りのコーナーをいろいろ準備しておられて、そのコーナーの手伝いを学生が積極的に補助をした。)
- ・子どものためにいろいろ用意していただいて、安心してできました。
- ・地域にこういう場所があって助かります。

第3回9月27日：B地域

- ・楽しかったです。ありがとうございました。
- ・楽しかったです。
- ・お兄さんお姉さんと楽しく遊べてよかったです。
- ・お兄さんお姉さんといっぱい遊んでもらえてすごく楽しかったです。ありがとうございました。
- ・楽しく子どもも喜んでいました。学生さんの声が聞き取り辛いことがあった。
- ・学生さんの笑顔と優しさがあってとてもよかったです。
- ・保育園に通っていないので、こういう遊びは大変助かりました。どうぶつ(パネルシアター)楽しかったです。プレーパークでもよろしくおねがいします。
PS. 毎晩寝るときに、「うまれてきてくれてありがとう」と言っています。(昨年度の出前講座の時に、絵本『うまれてきてくれてありがとう』をお母さんたちに読んでいた。)
- ・去年も参加させていただいたのですが、学生さんの雰囲気が去年よりよかったです。子どもが楽しそうに遊んでいました。
- ・いろいろな人とふれあえてよかったです。ありがとうございました。
- ・月に1度でも来ていただけたらと思います。Bは子どもを連れて遊べる場所がないので。
- ・また来年も楽しみにしています。

第4回10月13日：E地域

- ・子どもにもよい刺激になったと思います。
- ・初めての参加でしたが、楽しんでくれたのでよかったです。
- ・手遊び、紙芝居などとても楽しい時間を過ごせました。お兄さんお姉さんが優しく声をかけて下さったのが嬉しかったです。
次回も参加したいです。
- ・色々遊びを工夫して下さいまして楽しい時間を過ごせました。

- ・近くだったので遊びに来させてもらいました。

第5回12月1日：A地域

- ・いつもおもちゃで遊んでいるだけなので、パネルシアターやお歌を歌ったりと刺激があってよかったです。
- ・歌やパネルシアター、とっても興味をもって楽しめました。ありがとうございました。
- ・学生さんと触れ合う機会がないので、とてもいい経験になりました。
- ・子どももみんなで遊べて楽しかったみたいです。ありがとうございました。
- ・みんなで遊べてとても楽しかったです。またあったら参加したいです。

第6回1月13日：H地域

- ・日頃関われない大学生の方たちが一緒に遊んでくれたり、おもちゃも色々な種類があり、楽しく過ごせました。
- ・大学のお姉さんたちと遊べてよかった。先生にも合間合間に声をかけていただいて嬉しかったです。
- ・貴重なふれあいの時間が過ごせて、とてもよい経験になりました。
- ・子どもと一緒に楽しむことができました。
- ・子育て広場のような場所へは遠くなかなか足を運べないので、今日は子どもにとってよい刺激になりました。また次回も楽しみにしています。有り難うございました。
- ・大変よかったのですが、体を使った体操や遊びがあると1歳の男の子は、より喜んだかもしれません。
- ・子どもが伸び伸びと育ち、可能性が最大限に引き出せる環境を作ってもらいたい。
- ・子どもがいないのに参加させてもらい、今までとは違う視線で会を見ることができました。
子どものもつ創造性、自発性などみて、やっぱり子どもたちには“駄目”と叫ぶ、見守りの子育てが大事だなと思いました。
楽しかったです。

<2017年度>

第1回6月9日：F地域

- ・普段母親と2人きりのことが多いので、楽しい時間を過ごすことができました。
- ・同じ月齢の子たちとふれあえるととてもよい機会だと思いました。
- ・息子は少し男性が苦手なところもあったのですが、優しく遊んでくださって、母親そっちのけでよく遊んでくれました。ありがとうございました。
- ・色々な遊びを用意・準備してくださり、ありがとうございました。
- ・歌とか読み聞かせとか、たくさん遊んでもらえてよかったです。
- ・暑い時期に室内で遊べる企画を計画して下さりありがとうございます。部屋がもう少し広いと多くの子どもが遊びやすかったかなと思います。手遊びや歌、絵本の声の大きさや、学生さんが楽しい雰囲気と一緒に歌ったり、声をかけ合ったりしていたのは良かったかなと思いました。
- ・この場所があることも初めて知りました。(参加が遅かったため)大型絵本と自由遊びだけでしたが、音楽と合わせて本をよむのも楽しいなと思いました。
- ・初めてなので場所がわかりにくかったです。途中で来ても参加できたので良かったです。ありがとうございました。
- ・またしてほしいです。オムツを替えるスペースを作ってもらえると嬉しいです。
- ・次にあるときもまた参加したいです。

第2回8月3日：B地域

- ・普段、家では母親と2人なので、お兄さんお姉さんと遊んでもらえて楽しんでいました。
- ・自由に遊べる時間とお話を聞く時間といろいろあって、子どもも楽しめたと思います。
- ・とても楽しかったです。ありがとうございました。おもちゃがもっと沢山あると良いかなと思いました。
- ・歌や絵本など取り入れてくださったので、良かったです。
- ・人見知りな娘ですが、お兄さんお姉さんに遊んでもらい、楽しそうでした。

娘がお兄さんお姉さんのところに行くと、必ず笑顔で対応してくれていたし、年齢の違う子とも同時に遊んでくれていて、さすがです。内容も親もとっても楽しかったです

- ・T市には子どもを遊ばせる所が本当に少なく、子育て（特に未就園児）世代は困っています。
- ・なので、このようなふれあい遊びはとても楽しく、今後ももっと回数を増やしていただけないかなあと思う。
- ・去年も参加させていただいたのですが、去年より、学生さんが元気があって良かったと思います。
- ・とても楽しそうに遊んでいて良かったです。是非、次回も行きたいです。

第3回9月28日：F地域

- ・家ではなかなかできない遊びができて良かったです。
- ・大学のお兄さんお姉さんに声をかけてもらって、嬉しそうでした。
- ・たくさんのおもちゃや遊びを一緒にして下さって、子どもたちも楽しそうで良かったです。
- ・学生さんがよく遊んでくれたので、子どもも楽しそうでした。ありがとうございました。
- ・たくさん準備していただいて、とても楽しかったです。また、役員が準備している間、子どもたちと遊んでいたいたり、出し物以外の時間も子どもたちの相手をしていただいてありがとうございました。
- ・子どもの月齢に合わせて短い出し物を沢山してくれましたので、飽きずに見ることができていて、良かったです。時間のある時には子どもと遊んでくれて、喜んでいました。ありがとうございました。
- ・子どもが興味を持てる内容で、とても良かったと思います。
- ・去年の大学生の出し物を見せてもらった時は、1歳だったので内容が難しく、あまり楽しめなかったけど、今回は手遊びやパネルシアターも声かけと一緒にできて楽しめました。ありがとうございました。
- ・パネルシアターは子どもの興味を引いていたので、良かったです。また機会があればよろしくお願ひします。
- ・歌や手遊びが多いと未就園児の子どもは楽しめやすいと思います。紙芝居も一緒に指さしながらできたので楽しかったです。
- ・学生さんの出し物が1つ1つ短めで、小さい子でも楽しんで見ることができました。お祭りの内容もとても良かったし、おもちゃも木の優しい作りなので安心して遊ばすことができました。何より常に誰かが見ているのが親としてとてもありがたかったです。

第4回10月13日：J地域

- ・いつも学生さんがたくさん遊んで下さり、子どもに良い刺激をいただいています。また、次回も参加させていただきたいと思っています。有り難うございました。
- ・色々なところに行くのも楽しいので、もっと他のところでもやってほしいです。
- ・子どもがとても楽しそうに遊んでいて、良かった。
- ・皆さんとっても優しく、雰囲気も良かったです。有り難うございました。
- ・楽しかったです。また参加させてもらいたいです。
- ・普段遊ばないおもちゃや持ってない絵本があったので、良かったです。